

清水合金製作所の意欲的なモノづくりから生まれたイチオシ製品にスポットを当て、各回1人の営業担当者に製品概要や営業活動でのエピソードを紹介頂く連載企画が好評だったことを受け、今号から4回にわたって第4弾「バタフライ弁」シリーズを掲載する。同社が製造・販売する商品として、管路や施設用途にも顧客ファーストを強く意識した数多くの工夫が盛り込まれている。

清水合金製作所

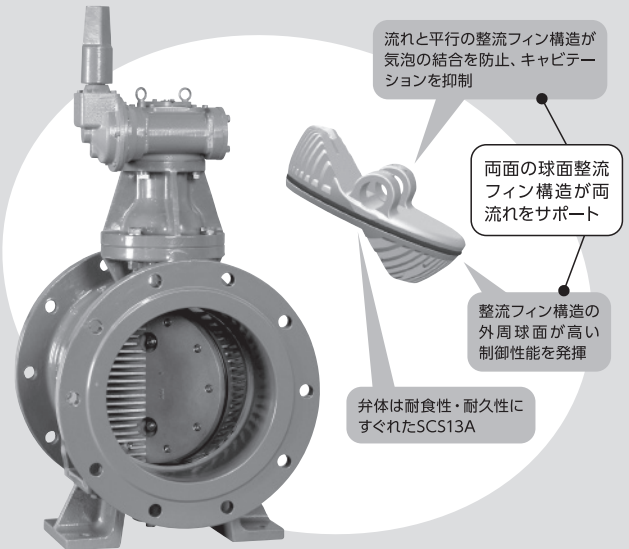
バタ弁シリーズ 数珠つなぎ①

営業本部副本部長
兼 東京営業所長 杉本 忠明 氏



イチオシ!

耐キャビバタ



キャビ抑制、両流れ対応も 将来も見据えた納入責任を

営業本部の杉本忠明副本部長。彦根の本社、岡山勤務を経て、現在は東京営業所長を兼任している。営業本部として広報活動に携わりつつ、東京営業所では関東甲信越エリア全体を統括する。

入社28年目を迎えた営業マンとしての心構えを聞けば、「納入責任」と一言。製品を納めて終わりではなく、維持管理や不具合の対応まで含めたフォローを大切にしている。「水を止めるバルブという製品を通じて、水道にとって最も重要である「水を止めない、ことに貢献できると考えています」とにこやかに語る。

杉本氏が紹介するのはキャビテーション抑制性能を備える流量調整弁「耐キャビバタ」。弁の開度に合わせて緩やかに流量が増加することから精密な流量調整が可能で、特に開度30%までの小開度における制御性に優れている。

「バルブを絞ることはキャビテーションとの戦いです」と杉本氏が話す通り、流量調整時のキャビテーションによる騒音や振動、管体への負荷は水道事業体の現場職員にとって大きな課題だった。このニーズを受け、同社は滋賀県東北部工業技術センター、大阪産業大学と共同研究を実施。同製品を特徴づける球面整流フィンによるキャビテーション抑制構造を開発した。

弁体にはフィン状の整流板が多数設けられており、これが水の流れを整えるとともにキャビテーションの原因である気泡の結合を防止する。「水の流れを妨げずにキャビテーションを抑制できるよう、フィンの幅や形状の最適解を求めて工夫を

重ねた結果、弁全開時の有効流量が通常のバタフライ弁の約98%とほぼ抵抗なく水を流すことが可能になりました」。また、フィン構造は弁体の両面にあり、流れる方向を問わずに流量調整ができる。この「両流れ」への対応は、ブロック給水や管網のループ化などの際に効果を発揮する。

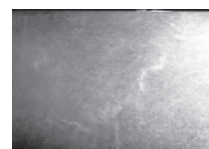
キャビテーションを抑えつつ、高精度な流量調整を可能とする同製品は、水運用の最適化を見据えたニーズにも合致する。「給水区域内に住宅地と工場を擁するある事業体では、両者への水供給のバランス調整に課題を抱えていました。住宅地への配水圧力確保が必要な一方で、工場側でも配水流量を一定化させたいという声が上がっていました。そこで、工場で使用する水の量や稼働状況、季節ごとの適切な流量をヒアリングし、どの時期にバルブをどのくらいの開度にするかといった流量調整プランをお客様と一緒に考えました」と杉本氏は振り返る。必要に応じて柔軟に流量を変更できる製品特性と、顧客に寄り添うきめ細やかな対応が採用の決め手となった。

水道が維持管理と更新の時代を迎え、事業体のニーズも移り変わってきている。杉本氏は「今後はダウンサイジング等の需要に対応できる製品開発を進めていきたいと考えています。製品をただ新しいものに変えるのではなく、水運用を見据えた新たな提案をしていくことが、この時代における納入責任だと思えます」と意気込みを語った。



工事現場でのクレーン操作も慣れた手つきで

標準品と耐キャビバタのキャビテーション発生状況



標準品



耐キャビバタ